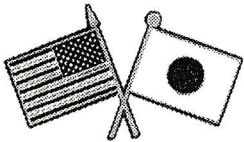


30 NOV 1999



第9号

日米エアフォース友好協会

だ よ り

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107-0052 港区赤坂8-4-17

赤坂郵便局私書箱 62号

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財)防衛弘済会

在日米軍司令官兼第5空軍司令官交代

ヘスター空軍中將が着任

前司令官 ホール中將は退役

9月3日、米軍横田基地において、在日米軍司令官兼第5空軍司令官の交代式、並びに離任する司令官ホール空軍中將の退官式が行われた。

司令官交代式は、米太平洋軍司令官ブレア海軍大將が執行官、同太平洋空軍司令官ギャンプル空軍大將が監督官としてとり行われた。



Lt. Gen. Hall returns the flag to Adm. Blair

司令官交代式は、統幕議長代理統幕事務局長、空幕長のほか在京並びに近傍の多数の現役の将官、歴代統幕議長、歴代空幕長等々内外多数の来賓の見守るなか、厳粛なうちに挙行され、在日米軍及び第5空軍の指揮権が、ホール空軍中將から新任のヘスター空軍中將へと引き継がれた。(ブレア大將、ギャンプル大將スピーチ及びヘスター中將着任の挨拶、要旨別掲)

引き続き同じ式場でホール空軍中將の退官式が行われた。ホール中將に対し、空軍参謀総長ライアン空軍大將からの記念の盾並びに感謝状が贈呈及び伝達され、同夫人に対して夫君ホール中將の32年間の勤務を記念して、32本のバラの花束が贈られた。そのあと駐日米大使からのメッセージ、同じく空軍長官からのメッセージが紹介され、そしてクリントン米大統領からの感謝状が伝達されたあと、ホール中將が離任並びに退官のことは述べて退官式は終了した。(ホール中將離任・退官の辞、要旨別掲)

引き続き場所を将校クラブに移して、ヘスター中將主催のレセプションが催され、式典参加者一同が会して、親しく歓談するとともにヘスター中將の着任を祝し、かつ相互に認識を深め、或いは旧交を暖める場となった。

以上をもって司令官交代式並びに退官式の一連の行事は終了した。

司令官交代式における

米太平洋軍司令官

ブレア海軍大将式辞 (要旨)

内外多数の来賓の参加を得て、本日ホール中将からヘスター中将への司令官交代式を私が執行官として挙行できるのは、誠に名誉なことであります。

1957年7月1日極東軍に代わって在日米軍が発足し、初代司令官にスミス中将が着任して以来、在日米軍の歴史上最も重要な出来事が起きました。それは1960年1月19日に日米安保条約が締結され、これに基づく地位協定が制定されたことでもあります。在日米軍司令官の任務は、日米安保条約に基づき日本の共同防衛計画を作り、有事には計画を実行に移し、指揮権を行使して防衛目的を達成することであり、平時にあっては日本の防衛庁、各省庁との交渉において太平洋軍を代表して事に当たることでもあります。日米同盟は、日本の安全にとって必須であるのみならず、極東の安全にとって最も重要な要素であることは、言うまでも無いことです。

ホール中将の過去14年の経歴を振り返ってみると、

- ①1985年6月カデナにある第18戦闘航空団副司令官補佐官、
- ②1987年7月第5空軍司令部作戦副部長、
- ③1989年第18戦闘航空団司令官として再びカデナに、
- ④1991年10月米本土のShaw空軍基地にある第363戦闘航空団司令官、その間7ヶ月サウジに展開、
- ⑤その後、米国防省国際安全保障局アジア太平洋部長
- ⑥その後、ハワイにある太平洋空軍司令部作戦計画部長
- ⑦1997年6月在日米軍司令官兼第5空軍司令官として着任。



Adm. Blair makes remarks

この経歴から分かるように、ホール中将はこの配置に最も相応しい人物として経歴管理されてきた。この配置に最も相応しい人物であったのみならず、職務を遂行する上で卓越した識見、能力を持ち合わせた司令官であった。ホール中将は冷戦後の新しい日米安全保障関係を構築し、21世紀に引き継ぐという重要な節目の役割を担った。難局にあって困難な職務を達成する上で絶対的に必要な、緊密な対人関係を自衛隊、防衛庁、外務省等との間で公私にわたり築き上げた。

過去14年間にわたって培い築き上げてきた、これらの緊密な人間関係と相俟って、ホール中将の的確な判断と適切な指導の結果、沖縄における施設移転等に関わる問題の解決に大きな進展を見せたこと、より実践的で重点指向した演習の実施、また部隊展開における改善であるとか、日本政府によるホストネーションサポートの充実拡大を実現させたこと等々顕著な功績を残した。

ホール中将のリーダーシップにより在日米軍は訓練の充実を図り即応態勢を向上させた。また、新ガ

イドラインの策定に当たり極めて重要な役割を果たした。この結果、邦人空輸、捜索救難、難民救助、PKO等の分野で自衛隊との成熟した相互協力関係が出来上がっていくものと思う。

ホール中将はこれら新ガイドラインの実行に向けて、在日米軍の先頭に立って引っ張ってきた。また、新しく Bilateral Planning Committee (BPC) の設置を防衛庁との間で合意し、既に活動を始め、日米2国間の計画を作成していく上で指針となる Bilateral Planning Guidance をまず作成することとし、そのための作業を監督指導してきた。これらの努力はやがて、日米間の合意に基づいた新しい日本の防衛計画へと結実していくものと思う。これらの計画は、より確かな日米安全保障関係の確立へ著しい貢献をするであろうし、また、そのことは極東アジアの平和と安全にとってキーとなるものであります。これらの努力は、日米2国間の関係強化をもたらすのみならず、極東アジアの将来の安全保障を強化するための基礎となるものであります。

日本は、世界第2位の経済大国であり、技術的にも進んでおり、民主主義国家であり、アジア太平洋地域で最も大きな経済的影響力を持つ、そういう国であり、米国との安全保障、協力関係を維持してきた。私は日本の国会が新ガイドライン法を成立させたことに変な勇気付けられました。これは日本にとって大変重要なステップであると思います。国会は、日米防衛協力の範囲を、日本の領域の防衛から、日本の安全に影響を及ぼす周辺の事態にまで拡大することを認めました。

日本は、将来のアジアの平和と安定の著しい増進を図るための計り知れない秘めた力を持っております。私は、日本が米国や他のアジア諸島と協調しつつ、もっとアクティブな国際的な役割を果たしていくものと信じております。国連決議による full range の peace operation への協力によって国際社会における日本に対する信頼や、実力についての評価が高められるものと思います。

日本が、安全保障政策を修正したり、拡大したりするためには国民の支持と理解が必須であることは

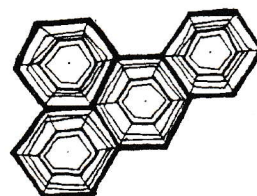
言うまでもありません。民主主義国家は、国の安全保障政策を支えそして文民政府の統制下に置かれた、実力を持ちそして国民から信頼された軍隊を保有しています。そういう軍隊の存在が国家の威信を内外に示し、平和と安全を保障し、地域の発展をもたらします。

私は、日本は自衛隊の防衛的な態勢を変えることなく、軍事力の持つ役割の拡大に対する国民の支持は増えていくものと信じています。このことにより日本は、極東地域の平和を脅かす状況がある中で、経済的にも発展した大国として、より相応しい役割を果たしていくことが出来るようになると思います。

ホール中将は、素晴らしい仕事をやり遂げました。彼の指導のもと日米の関係はより成熟したものになったし、顕著な前進を見、協力、友好、安全保障の各方面にわたり一段高い階段へと進めてくれました。退官後、ヴァージニアに帰られての生活でご夫妻ともども幸多かれと祈ると共に、国家に対する永年にわたる奉仕に対して心から感謝申し上げます。

ホール中将に別れを告げる一方で、歴戦の勇者である戦闘機パイロット、ポール・ヘスター中将並びにご家族の着任を心から歓迎致します。彼の前職務は、ワシントンの米空軍司令部で空軍長官室議会連絡部長でしたが、優れたリーダーシップとエネルギーを、この新しい重要な職責の全うに発揮してくれるものと思います。ヘスター中将の舵取りにより、日米関係は新しいレベルの協力、友好関係へと発展していくものと確信しています。そしてそのことは、極東アジアの平和と繁栄をもたらすものであります。

終わりに、日米2国間の強い絆を象徴するこの重要な式典に参加して頂いた皆さまに厚く御礼申し上げます。



司令官交代式における

米太平洋空軍司令官 **ギャンブル**空軍大将式辞 (要旨)

今日の国際環境を見てみるに、冷戦後の世界には顕著な変化がみられます。国内的、国際的、政治的、経済的、地下資源をめぐる争い、宗教上の対立、民族自決権に関する争い等々、複雑多岐にわたる要因が国際環境を極めて不安定にしております。このような不安定さは、安全保障にとって未だかつてない脅威となっています。

北朝鮮の状況は、閉鎖された国内でいかなる政治的、経済的ドラマが展開されていて、慢性的に衰弱した国内事情が、暴動や紛争の引き金となるのかどうか、我々は注意深く見守っていかなければなりません。韓半島は、世界で最も爆発し易い危険を孕んだ予測し難い紛争危険地帯であります。この地域の安定のためには、日米が確固としたパートナーとして存在し続けることが不可欠であります。

このような意味合いから、日本に駐留する米軍の指揮官の選定は、極めて慎重に行われてきました。平時にあっては、確固たる同盟の強化に貢献でき、又もし一旦有事となれば、戦時指揮官としての能力を発揮できる人物である必要があります。

本日離任するホール中将が残した立派な遺産は、時と共に消え去るものではありません。我々は上に述べた資質を備えた人物としてホール中将を選びました。そして彼は卓越した任務達成能力の故に、その基準を一段と高い所へ押し上げてくれました。ホール中将の空自に対する理解、空自主要幹部との交友関係及び彼個人の優れた資質により、日米両空軍間の信頼関係は、著しく向上しました。彼の指導のもと、コープノース訓練は、真に相互的な訓練へと成長しました。即ち、コープノースに参加する空自戦闘機が、初めて、国外の米軍基地に展開し訓練を実施しました。又、空自がAWACS導入を決めるに当たり適切なアドバイスをすると共に、日米のAWACSパイロット、クルー、コントローラーの共同訓練に当たっても指導力を発揮しました。また、在

日米軍施設整備に充てられる日本政府の思いやり予算の執行に当たり、慎重な検討の上で、三沢、横田



Gen Gamble makes remarks

両基地の任務達成にとって緊急的に整備充実を図る必要のある施設、及び福利厚生のための施設を厳選して事業を推進し、部隊の任務遂行能力の向上、隊員の士気高揚に著しく貢献しました。

在日米軍にとって、間違いも無くかけがえのない人物が去り、そして32年間の国家に対する奉仕を終えて退官されます。

彼の軍歴は、ベトナム戦争への従軍から始まり、そしてベトナム戦の後遺症を引きずった軍に対する評価の低い時代を耐え、冷戦を戦い、軍事予算の削減の中で部隊の近代化、即応態勢の維持に困難を極めた時代を生きてきました。そして、階級が進み責任が増えるに伴って、ホール中将は冷戦の終結を見、米空軍の近代化は進み、又、世界各地での戦闘で勝利を収める時代も経験してきました。

私は、太平洋空軍司令官として、そして空軍参謀総長ライアン大将に代わり、米空軍を代表して、ホール中将の第5空軍司令官としての素晴らしい功績に対して、そして国家に対するエアマンとしての卓越した献身に対して、深甚の敬意を表すると共に心から感謝申し上げます。

ヘスター中将、着任おめでとう。

米空軍と空自の特別な関係を考慮し、空軍参謀総長は、ホール中将の後継者としてヘスター中将を指名しました。我々はもう一組のオールスターチーム、ヘスター中将夫妻を新たな司令官として迎えました。



Lt. Gen. Hall returns the flag to Gen. Gamble

として、更にその前は欧州安全機構への統合参謀本部代表として等々、多くの要職を歴任してきました。

ヘスター中将は、前職はワシントンの米空軍省空軍長官室議会連絡部長として、その前は統合参謀本部 J-5 部長

アジア太平洋地域での勤務は、A-7のパイロットとしてベトナム戦争に従軍したのを皮切りに、1990年代初め、沖縄カデナの第18戦闘航空団作戦群司令官として、そして同航空団副司令官として勤務し、続いて三沢基地の第35戦闘航空団司令官として勤務しました。

ヘスター中将のこれらの経歴は、この重要な職責を全うするに十分であります。本日、日本に駐留する部隊のエアマンの新しいトップとして、ヘスター中将を迎え、式典参加の皆さんにご紹介出来ることを誇りに思います。

新司令官 ヘスター中将着任の挨拶

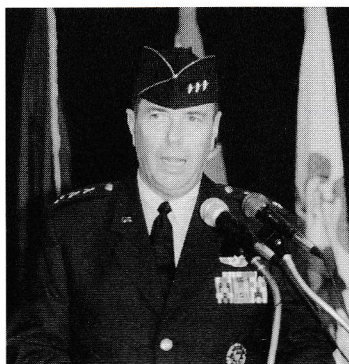
本日この式典に出席頂いている統幕議長代理岡本統幕事務局長、ブレアー太平洋軍司令官、ギャンプル太平洋空軍司令官、ホール中将、自衛隊の現役並びにOBの方々、三沢から駆けつけてくれた友人達、そして日本に所在している米軍の軍人並びにその家族の方々に対して、心から厚く御礼申し上げます。

家内リンドと私は、西部太平洋に再び帰ってこられたことに大変興奮しております。このような人事をして頂いたブレアー大將並びにギャンプル大將に感謝申し上げます。

2年前に三沢を離れた時、家内は私に「身体は米国に帰りますが、心は日本に残したままです。」と言いました。従って、今日は私と家内にとって特別な日であります。この偉大な国、日本で再び勤務できる事を心から喜んでいきます。

日米両国の共通の目標、理想、そしてそれを達成するための努力は、日々強化、発展していつている2国間のパートナーシップによって支えられています。パートナーシップは、相互の信頼、尊敬、理解そして価値観の共有によって作り上げられています。

私は、諸君とともにホール中将が、26ヶ月の在任間に成し遂げられた事を継承して更に発展させ、



Lt. Gen. Hester makes remarks

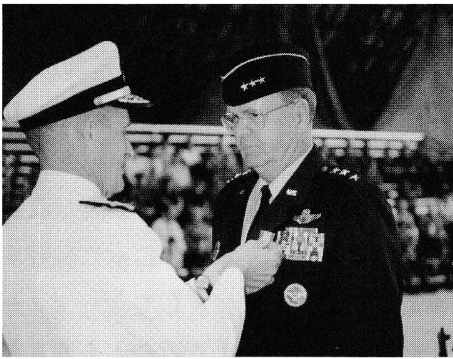
次代に引き継いでいきたいと思ひます。日米2国間の安全保障関係は、日米両国のみならず世界の平和と安全にとって死活的に重要なものであり、目的達成に向けて諸君と共に前進していきたいと思ひます。

今日はまた、ホール中将の退官式に陪席できた事を名誉に思ひます。ホール中将とは、ドイツからワシントンへ

そして日本へと勤務を共にしてきました。ホール中将の長年にわたる国家に対する奉仕並びに米空軍の発展と育成への貢献に対して、深甚の敬意と謝意を表したいと思ひます。どうか“Check 6”, “God Speed”, “Safe Journey”を!

最後に日本のホスピタリティーに対して感謝したいと思ひます。アメリカ人は“Sense of community”を好みそして大切にします。日本の方々のホスピタリティーは、我々日本で勤務する軍人並びにその家族にとって、歓迎されているという感覚を抱かせ、また、職務に意欲を湧かせる源となっています。その意味で、我々は貴方がた日本のコミュニティーの隣人でありまた一員でもあることを嬉しく思ひ、日本の皆さんのホスピタリティーに心から感謝申し上げる次第です。

前司令官 ホール中将離任の挨拶 (要旨)



Adm. Blaiv decorates Lt. Gen. Hall with the order

「家内と私は、長年の夢であった職務を全うできたという喜びを持って、本日、日本をそして米空軍を去ります。米空軍における最後の職務として、在日米軍司令官兼第5空軍司令官を拝命し勤務できたことは、大変な名誉であり、また32年の軍歴の終章を飾るにふさわしいことであったと思っています。」と述べられた後、職責を全うするに当たり直接或いは間接に関わりをもってきた、以下の人達、

- 両司令部のスタッフ
- Smith, Wood, Volcheff, 3人のウィングコマンダー
- 上司である、太平洋軍司令官 Blair大將、太平洋空軍司令官 Gambel大將
- Foley駐日米国大使
- 自衛隊統幕議長、陸、海、空幕僚長並びに自衛隊各級指揮官等
- 在日米軍で勤務する隊員

「家内と私は、長年の夢であった職務を全うできたという喜びを持って、本日、日本をそして米空

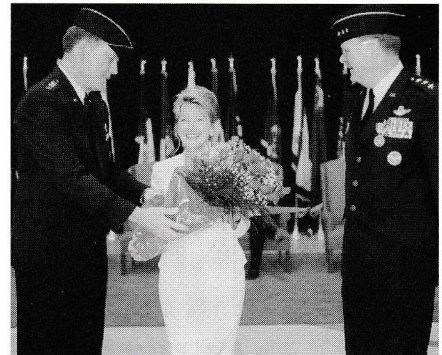
○司令官秘書

○家族

これらの人々に対して、感謝の気持ちを心を込めて述べられた。なかんずく、苦楽を共にしてきた夫人に対して最大の賛辞をもって感謝の気持ちを述べられた。

次いで、軍歴の最後となった日本での勤務に関し「我々は、日米の安全保障関係を充実させ、発展させることに大いに寄与できたものと信じています。又、日本での2年間の勤務を誇りをもって思い返す事が出来ます。」と述べられた後、最後に「私は、軍籍に在った事に対して、そして国家に対して、又、ユニフォームに対して誇りをもって本日退官します。軍人として国家に奉仕するという仕事は、間違いなく、やり甲斐のある素晴らしいことでありました。そして、そう

させてくれた全ての人達に対して感謝申し上げます。」と言って、離任、退官の辞を結ばれた。



Gen. Gamble presents 32 roses to Mrs. Hall

ポールV. ヘスター中将略歴

ポール V. ヘスター中将はミシシッピ大学在学中、予備役訓練に参加。1971年、空軍に入隊。同年12月、同州コロンバス空軍基地にてパイロットに任命されて以来、これまでの総飛行時間は2,600時間。A-7D、F-4、F-15、F-16等の航空機を操縦し、東南アジアにおける戦闘にも参加。また各地の実戦・訓練部隊にてA-7D、F-4、F-15等の飛行教官も努め、第94戦術戦闘機隊、ヴァージニア州ラングレー空軍基地、嘉手納基地第18航空団、三沢基地第35戦闘航空団、フロリダ州エグリン空軍基地第53飛行隊等の司令官を歴任。

この他にも、戦術航空コマンド司令官補佐、米国議会における空軍連絡部長、統合参謀本部J-5部長、欧州安全機構への統合参謀本部代表等の要職を歴任。

教育：

- 1969 ミシシッピ州立大学にてビジネス管理学士号
- 1970 ミシシッピ州立大学にてビジネス管理学修士号
- 1974 スクワドロン将校学校
- 1979 空軍コマンド・スタッフ・カレッジ
- 1980 カンサス州フォート・レヴィンワース陸軍コマンド・ジュネラル・スタッフ・カレッジにて軍事技術科学修士号
- 1990 ワシントンD. C. ナショナル・ウォー・カレッジ
- 1992 ハーバード大学ジョン・F・ケネディスクール国家安全プログラム
- 1993 ハーバード大学国際政治センター上級研究員
- 1999 ハーバード大学ジョン・F・ケネディ・スクールにて米国・ロシア将官研修講座

経歴：

1. 1971年1月-1971年12月、ミシシッピ州コロンバス空軍基地にてパイロット研修
2. 1972年1月-1972年12月、アリゾナ州デイヴィス・モンタン空軍基地第333戦術航空訓練隊にてA-7Dパイロット
3. 1973年1月-1973年7月、A-7Dコマンダー、コラット・ロイヤル・タイ空軍基地354戦闘航空隊
4. 1973年12月-1974年8月、A-7Dコマンダー、デイヴィス・モンタン空軍基地355戦術航空団
5. 1974年9月-1976年12月、アリゾナ州ルーク空軍基地311、555、461戦術航空訓練隊にてF-4及びF-15教官

ホール中将送別会を実施

在日米軍司令官兼第5空軍司令官ホール中将は、9月3日付をもって離任されると共に同日付で退官されたが、これに先立つ8月13日ホール中将ご夫妻を迎えて、J A A G A主催の送別会がグランドヒル市谷において催された。

ホール中将は過密なスケジュールの中、同日もハワイから帰国されたその足で、成田空港から直接会場にかけつけられた。

送別会は、石塚会長以下J A A G A会員40名の他、竹河内空幕長を始めとする約20名の空自現職幹部、そして横田基地からも5名の参加を得て実施された。

開会の挨拶で、石塚会長から、ホール中将が在日米軍司令官兼第5空軍司令官として在任の間、沖縄問題始め、新ガイドライン策定等、日米安全保障に関わる数々の案件の解決に多大の尽力をされると共に、日米共同訓練の充実発展に努められる等、多く

の御功績を残され、又奇しくも2年半前ホール中将の着任直前にJ A A G Aの発足を見、その後もJ A A G Aの発展育成に並々ならぬご尽力をされてきたこと等に対し敬意と謝意を表すると共に、退官後のご多幸を祈念して、送別の辞とされた。

これに対しホール中将は、J A A G Aがこのような機会を設けてくれた事に対しまず謝意を述べられ、会場の会員の中には30年来の古い友人から新しい友人まで各層にわたる人々が居ることを引用されつつ、空自との深く長い関わりを強調された後、軍人としての最後の職務を日米安全保障に直接携わる在日米軍司令官兼第5空軍司令官として全うできた事を誇りに思う旨述べられ、関係各位に対し謝意を表明された。

その後、ホール中将ご夫妻を囲み和やかな歓談が続く中、別れを惜しみつつお開きとなった。

石塚会長、JANAF A懇親会に出席

11月16日、JANAF Aの懇親会が実施され、石塚会長が招待を受け出席された。
出席された会長より、次の通り所見が寄せられた。

11月16日、よこすか平安閣で行われたJANAF Aの懇親会に出席した。

本懇親会は、年に一度全会員を対象として実施している米海軍艦船の見学会に引き続く行事で、参加者は、会員約200名、米軍80名、海自等50名の約330名との事であった。

藤田海幕長は、米国で74か国が参加したシーパワー・シンポジウムから帰国したばかりであり、祝辞の中で、海上自衛隊に対する米国海軍の理解の深さと手厚い配慮をJANAF Aの貢献の賜であるとして語った。

第7艦隊司令官ドーラン中将は、日米ネービーの連携密度の高さを讃え、米海軍作戦部長ジョンソン大將が藤田海幕長に示した配慮は当然であるとし、最後に国会から駆けつけた西川太一郎防衛政務次官は、海軍記念日が誕生日であるから招待されたと笑わせながら、我が国の防衛にとって日米ネービーの緊密な関係の重要性を強調した。

引き続き、米海軍4名、海自4名の感謝状受賞者が、家族と共に壇上で紹介され、万雷の拍手を受けた。

懇親会は、予てより密接に連絡を取り合っている同志の親密な雰囲気がいっぱい溢れるものであった。

米空軍 Air Force Ball で日米隊員を表彰

米空軍の創立記念式典（Air Force Ball）が横田、三沢基地では9月18日、嘉手納基地では9月25日に実施された。それぞれの式典行事次第の中に恒例となったJ A A G Aからの表彰式が組み入れられ、それぞれの基地に石塚会長（横田）、石川副会長（三沢）、横沢副会長（嘉手納）が列席し、日米共同訓練等で活躍した米空軍、空自隊員に対してJ A A G Aからの表彰状と記念の盾を授与した。

【横田基地】

横田基地のエアフォースボールは9月18日、東京ニュー山王ホテルにおいて開催された。今年のエアフォースボールは、世紀の変わり目と、米空軍の改革を強く意識した内容で構成されていたのが印象的であった。

横田基地司令のボルチェフ大佐が、公式行事を締めくくる挨拶の中で最も強調したのは、米空軍が21世紀においても世界最強・最精鋭の宇宙空軍であるための鍵は将兵の質にある、とした点である。52歳の誕生日を迎えた米空軍が、これまで培った伝統を大切に育みながら、21世紀に向かっての決意を新たに、士気高く、団結を強固に、改革を推進して行こうとする意気込みがひしひしと伝わってくるエアフォースボールであった。

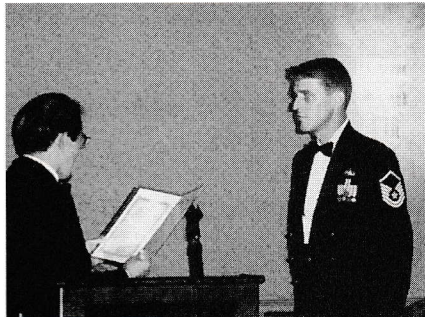
航空自衛隊からは、竹河内航空幕僚長夫妻他、東京在住及び近郊の部隊長等が参加した。J A A G Aからは石塚会長が参加して、A F A（米空軍協会）会長と連名で優秀隊員3名の表彰を行い、9月3日に着任したばかりの在日米空軍司令官ヘスター中將はじめ主要幹部から多くの感謝の言葉を受けた。（石塚会長）

被表彰者

- ① Capt. Zeb York（米空軍第374空輸団）
- ② MSgt. John. Chesly（ ” ）
- ③ SrA. Matthew B. Miller（ ” ）

【三沢基地】

9月18日に三沢基地において、日米関係の良好な発展に大きく貢献した米空軍のコオネル曹長と航空自衛隊の山本曹長に対し、J A A G Aから感謝状が副賞を添えて授与された。授与式は米空軍の年1



M. Sgt. Geoffrey M. Connell

回のビッグパーティーである、エアフォースボールの席上で行われましたが、数多くの参加者の前で授与が行われたので、受賞者の喜びは大きく、また広報効果も大であったものと思われる。

パーティーの間に司令官を始めとする米空軍関係者や三沢基地協力会

の人達からJ A A G Aへの多くの謝意や称賛の言葉を頂きました。小人数に対するささやかなプレゼントですが、こうした地道な活動も非常に意義深いものであることを強く感じた一夕でした。（石川副会長）

被表彰者

- ① MSgt. Geoffrey M. Connell
（米空軍第35戦闘航空団）
- ② 空曹長 山本親男（空自北空司令部）

【嘉手納基地】

9月25日、嘉手納基地において米空軍隊員と夫人、招待者である在沖縄の陸海空の自衛隊部隊長等、沖縄官民の代表等、約700名が参加して式典行事が実施された。

J A A G Aによる表彰式は米空軍創立記念式典行事の式次第の1つとして行われ、代表の横沢J A A G A副会長が表彰状の日本語を読みあげ、次に通訳が英文を読み上げる形で行われ、表彰後は写真撮影も実施された。参加者に対するJ A A G Aの紹介も含めて、J A A G Aの存在PRに効果があったものと思う。

また、今回は優秀米空軍人のみでなく航空自衛隊員にも表彰が実施されたことは、日米の絆を深める意味でも効果があったものと思われる。（横沢副会長）

被表彰者

- ① SrA Benjamin Harris（米空軍第33救難隊）
- ② 空士長 糸井徹臣（空自那覇救難隊）

日米親善ゴルフ大会—SPORTEX'99—



団体優勝は航空自衛隊チーム

Award ceremony at the SPORTEX '99, Tama Hills G. C.

恒例となった第3回日米親善ゴルフ大会（SPORTEX'99）は、去る9月23日の秋分の日に米軍多摩ゴルフ場において開催された。

太平洋側に秋雨前線が停滞し、連日ぐずついた天候が続く中、九州南方に台風18号が接近、前日は大会の中止を予期させる大雨であった。大会当日は終日曇り時々小雨の予報であったが、参加メンバーは小雨が降る中、早朝06:00頃から参集し、集合時間の06:30分には参加予定者全員が集合を完了した。実行委員長のユーモア溢れるブリーフィングの後、各ホールに散って07:00を期して一斉にショットガン方式により競技が開始された。スタート当初は小雨模様であったが、参加者の熱意が通じたのか、天気予報とは反対に、時間と共に雲が切れ、競技の後半には青空が覗き、昼食、表彰式では多摩ヒルの緑と青空の美しい秋日和となっていた。

大会は、航空自衛隊チームは航空総隊司令官大串空将以下29名、在日米空軍チームは副司令官ゴレンス准将以下26名、JAAGA会員チームは石塚会長以下53名が参加、総勢108名が団体チームの

部、及び個人の部で覇を競った。各パーティーは、日米、現役、OBの混成で編成され、日米親善よろしく、終始賑やかにプレーを楽しむ者あり、一打入魂、真剣に競技に臨む者ありで、珍プレー好プレーの連続に、予報に反して顔を出した太陽も多摩ヒルに微笑みを洩らしていたことだろう。12:00プレーを終えてクラブハウスに集まってくる参加者の和気藹々とした雰囲気と、その顔に例外なく伺える満足気な表情が日米親善・友好の実の確かさを物語っていた。今大会の団体優勝は航空自衛隊チームが獲得し、米空軍チームとの対戦成績を2勝1敗とした。前年優勝の米空軍チームは惜しくも2位に甘んじたが、「来年は頂くよ」ともう次回に向けての舌戦が始まっていた。団体優勝チームを代表して、大串空将は「JAAGAには何時も大変お世話になっており感謝している。中でもこのSPORTEXは最高に嬉しいイベントだ、是非とも続けて欲しい。」とスピーチし、参加者も大きな拍手で賛同していた。最後に石塚JAAGA会長が、「JAAGAの活動を更に充実させ、日米の現役が更に深い絆で結ばれる

様お手伝いをし、ひいては日米共同に寄与できれば、」との趣旨で決意を表明すると共に、「今大会が成功裡に終了できたのも、参加を頂いた皆様のJAAGAに対するご理解と米空軍の運営面での大きな、且つ、木目細かな支援を頂いたため」と感謝の意を述べて大会を締めくくった。

なお、第五空軍司令官のヘスター中将は、所用のため大会には参加できなかったが、スタート前に会場に姿を見せ、参加者に挨拶をした後会場を後にした。

成績は以下のとおりである。

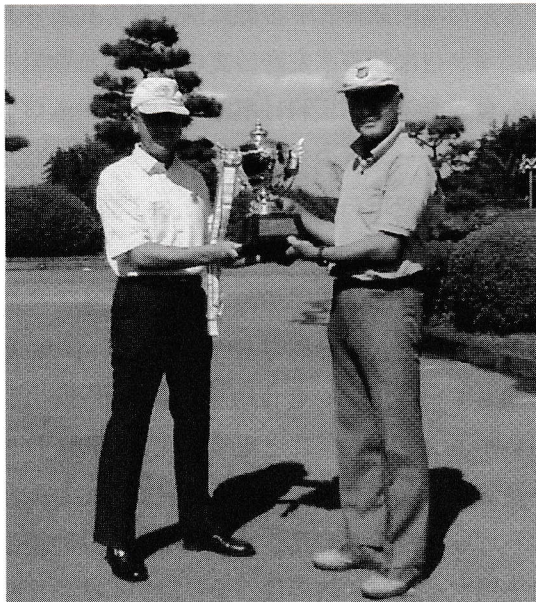
団体優勝 航空自衛隊チーム

個人順位賞

優勝	山口利勝 空将	9 位	Ltc. Snodgrass	80 位	長谷川孝一
準優勝	GS-12 Vactor	10 位	Col. Volcheff	90 位	内山 好夫 将補
3 位	遠竹 郁夫 空将	20 位	大橋 武郎	100 位	Maj. Clutter
4 位	杉原 靖治	30 位	長谷 莞 将補	BB賞	Cap. Smith
5 位	野田 耕平 1佐	40 位	石川 武	BM賞	AAgt. Bethancourt
6 位	C.K アカナ	50 位	野本 経雄	当日賞	吉田 正 将補
7 位	笠井 健介	60 位	Col. Beaty		
8 位	葦津 和親	70 位	村山 善康		

特別賞

ベスグロ	山口 利勝 空将	最優秀パーティー	BGen. Gorenc
ニアピン	伊藤 惇		大串 康夫 空将
	小澤 武		石塚 勲
	葦津 和親		笠井 健介
	BGen. Gorenc	シルバー賞	立山 尚武
ドラコン	野田 耕平 1佐	ヤングスト賞	A1C. Rolfes
	MSgt. Eellbom	ベストドレッサー	Col. Klackle
		バースデー賞	安食 充博 将補
			富田 修 1佐



Presents the winner's trophy to the JASDF team



At the 19th hall

『第1回日米空軍友好親善ゴルフミート in 沖縄』に参加して

後藤 理事

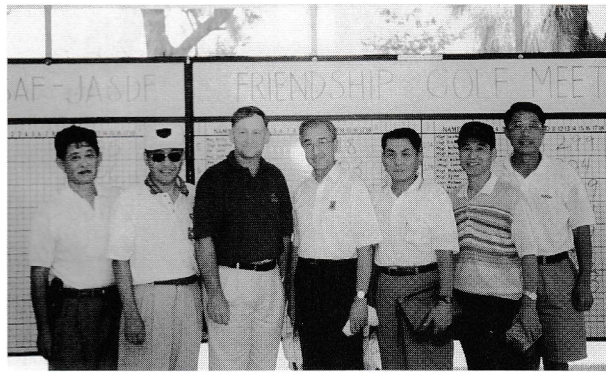
去る7月20日(火)の「海の日」、米空軍嘉手納基地内にあるバンヤンツリー・ゴルフコースにおいて、在沖縄日米空軍友好親善ゴルフミートが行われた。これは毎年多摩で行われている「SPORTEX」の沖縄版といったものであるが、少し違った面がある。ゴルフを通じて、沖縄に勤務する日米両空軍の友好親善を深めようではないかとの気運が日米双方に高まり、これをJAAGAが支援することとなったものである。あくまでも友好親善を旨とするため、SPORTEXのような沢山の個人賞は設けず、和気

藹々たるゴルフを楽しみながらお互いにお互いを知り合うことを目的とするもので、チームの対抗戦のみであった。各チームは日米の混成で、階級的にも将校、下士官が混在していた。従ってコンペという言葉は使用せず、“ミート (Meet)”

という言葉が用いられた。当日、早朝のバンヤンツリーに集結したのはUSAFから第18航空団司令官スミス准将以下47名、JASDFから南混団司令西川空将以下59名、JAAGAから石塚会長、現地在住の石津会員及び後藤の3名、総勢109名の選ばれし面々であった。06:45にオープニングセレモニーが始まり、日米を代表してスミス准将、西川空将がそれぞれ挨拶を行ったのち07:00、ショットガン方式により一斉スタートした。猛暑の中、各チームは随所に好プレー、珍プレーを展開しながら12:00全プレーを終了、引き続き懇親ランチに移った。中年の我々にはいささか持て余すようなボリュームのステーキと格闘しているうちに、表彰式の時間となった。JAAGAの提供による見事な大トロフィー2個は、それぞれ『ベストチーム賞』と、『フレンドシップ賞』に充てられた。ベストチーム賞はチーム

としてのベスグロであり、「キャッシュ軍曹・バージ軍曹・花尾1曹・吉岡2曹」のチームが獲得、またフレンドシップ賞は「バーロー Jr 中尉・フリソ軍曹・松永1尉・野尻1尉」のチームに与えられた。このフレンドシップ賞というのは、友好親善のための会話に熱中するあまり、プレーがおろそかとなり全体のスコアがワーストになってしまったに違いない、ということで選考されたとの説明があり、いかにも米国人らしいユーモアあふれる賞の設定振りであった。石塚会長が両チームにトロフィーと副賞

を授与しながら、「諸君は世界の何処に居ようとも、来年必ずここに戻って来るように」といった趣旨のスピーチをすると、会場は爆笑と拍手の渦に包まれた。そして最後にスミス准将が、「有事にお互いが良い仕事



Friendship Golf Meet in Okinawa

出来るのは、日頃からお互いを良く知っているから出来るのであり、今回のJAAGA主催によるゴルフミートは大変意義深い催しであったと思う」旨の感動的なスピーチで表彰式を締めくくり、14:00お互いに来年の再会を約してブレイクとなった。参考までに述べると、今回のベスグロは71、ワーストは144でいずれもUSAFのプレーヤーだった。

今回の日米空軍友好親善ゴルフミートが大成功裡に終了したのは、米空軍と南混団の綿密な連絡調整、米空軍側の周到な事前準備の賜であり、実施にあたって、実に見事な運営振りであったと絶賛したい。この機会を借り、強い指導力を発揮されたスミス准将及び西川空将並びに日米の関係者の皆さんに、改めて心からの御礼を申し上げたいと思う。誠に有り難うございました、そしてまた来年お会いしましょう。

日米幹部の相互派遣

航空医学実験隊 米空軍中佐 Andrew Tong

1. 勤務

私は東立川基地にある航空医学実験隊に配置されています。私の主任務は航空医学実験隊とこれに係わる関係者に対する専門的な助言です。私と一緒に勤務する人達はそれぞれ情熱をもって自分の仕事をしており、私は驚嘆しています。そしてまた素晴らしいホストでもあります。



Lt. Col. Tong explains an experimentation

私の同僚の思い遣りと配慮は私の仕事を非常にやり易くしています。ここの配置は他の交換幹部とは違っています。ここの部署は1996年に米空軍と航空自衛隊の間で相互に交換可能なプログラムだけを活用する、日米両空軍の人体組織研究(human system laboratories)に関する科学技術交換の場として設定されました。先入観もなく、的確な支援の態勢は以前からあったものです。93名からなる航空自衛隊の医学実験隊は幅広い人間の適応性の探求と、米空軍の航空宇宙学校と現在の米空軍調査研究所の前身であるアームストロング研究所を一緒にしたものに似た訓練の任務をもっています。

航空医学実験隊の担当と一緒に目を開く実験をしてきました。これは私が今後米空軍に戻って大事にするであろう体験でした。同封の写真は

作中とその直後のものです。



In the cockpit of simulator

2. 日常生活

私は職場から40分のところに住んでいます。車の運転は慣れてしまうと楽しく思われます。運転の時は色々な紹介のテープを聞いているので有意義です。

家族は、妻と、今年の11月で11歳、9.5歳、8歳の子供3人です。妻は多くのボランティア活動をして活躍しています。特に、学校の授業時間内外に喜んで子供の先生を支援しています。彼女は日本人達は非常に魅力的だと思って居ます。

子供達は楽しく良く遊び、活動的です。彼等はポケモンやニンテンドウがある学校が好きです。私の子供も日本の子供達と同じように、学校の授業以外にバスケットボール、野球、サッカー、水泳、ピアノ及びバンドをやっています。一番年長の子はボーイスカウトにも参加しています。

我々はアメリカで容易に手には入らない多くの日本の食べ物の味を習得しました。例えば、大根や豆腐は最高であり、多種多様で新鮮な食べ物はアメリカでは簡単に手に入りません。私達は年中手に入る新鮮な魚介類、野菜が本当に好きです。

3. 趣味、娯楽

家族はみんな、水泳、釣り、それにハイキングが好きです。私は又、チェスの様な戦略ゲームを集めたり、プレイすることが好きです。

初級の日本語訓練を終えて以降、私の趣味のリストにカラオケ、アジアの歴史を読むこと、そして書道を追加しました。また、これまでに日本国内での多くのハイキングも楽しみました。

妻は木彫りや和紙細工の様な日本独特の技巧に強く興味を持つようになりました。彼女は過去2年間で500種類を超える和紙細工を作ったと思います。

J A A G Aのメンバーである武智夫婦に大変お世話になり感謝しております。彼等にももらった手造りの版画を家に飾って大事にします。

最後に、再度、私の子供たちはポケモンに係わる全てに虜になってしまいました。

4. 抱負等

私は科学的な指導力と技術管理の能力をもって

奉仕するために米空軍に戻るつもりです。米軍は向こう十年間、厳しい予算の制限に直面しています。この様な中で、最先端技術分野にある者は有能な軍事的科学者達の能力を向上させることによって重要な分野を維持しなければなりません。直接戦闘に係わる米空軍科学技術部隊にとって、これは極めて重要なことです。予算等の削減環境の中で軍を指導できる様、科学技術部隊のもっている能力を最大限に発揮しなければなりません。どこも同じですが、戦闘部隊と航空宇宙研究部隊は甲乙つけ難いものです。

5. 印象に残ったこと

日米の重要な研究課題は同じであること。

6. J A A G Aに望むこと等

J A A G Aの支援に対して申し述べることはありません。逆に、私の日本滞在中にJ A A G Aのために役に立つことをやりたいと思います。

航空自衛隊幹部学校 米空軍中佐 Andrew Uehara

1. 勤務について：

昨年9月に、東京都目黒区にある航空自衛隊幹部学校に来て、あっという間に1年が過ぎました。米空軍交換教官としての私の主な任務は、幹部高級課程、指揮幕僚課程、幹部普通課程の学生に、米空軍の教義、戦略、組織等を教育することです。他に英会話教育、米空軍との連絡調整、翻訳の仕事もしています。

授業ではパワーポイントやビデオを用いて教育をしています。関連する米軍での私の経験談や意見も話します。米空軍についての講義や英会話の授業の準備をするために、インターネットをよく使い、最近の情報やニュースを調べています。

米空軍についての講義は日本語で行うよう努めています。現在の私の日本語能力はまだ初歩レ

ベルです。日本語のパワーポイントと簡単な英語を使うことで、授業のポイントを理解してもらっています。おそらく、この仕事で私も最も困っていることは、日本語を堪能に話したり、読んだり、書いたり出来ないということです。上達しつつありますが、進み具合は遅いです。

2. 生活について：

私は結婚しており、娘が2人います。私と妻は、幹部学校に近いアパートに住んでいます。娘は2人ともアメリカに住んでいます。上の娘は、大学を卒業し、イリノイ州シカゴで働いています。下の娘は、オハイオ州立大学の学生です。2人とも日本には年に1度か2度帰ってきます。私は毎日歩いて通勤しています。約20分かかり

ます。私と妻は、この地域での生活を楽しんでおり、時々、明治神宮、恵比寿ガーデンプレイス、渋谷等、近くの関心のある所まで歩いていきます。私達は、目黒に住み、米政府の経済支援を受けていることを、とても幸運に思っています。これは一生に1度しかないことだと思います。

3. 趣味又は娯楽について：

私はスポーツが大好きです。いろいろなスポーツを観るのもするのも好きです。また、日本食を食べたり、国内を旅行したり、日本語や日本文化について学ぶことも好きです。ハワイではいろいろなスポーツをしましたが、日本では主に、昼休みにジョギングをしたり、天気の良い週末にゴルフをしています。

日本の食べ物に関しては、好きな食べ物がたくさんあります。特に、梨、柿、桃、ぶどう、レンコン、カボチャ、山芋等の果物や野菜が好きです。ここには書ききれない程です。おわかりのように、私は日本での食事には問題がありません。また、私は2年前に日本に来てから、お酒をたくさん飲めるようになりました。しかし、まだ、職場の皆さんほどたくさん飲むことは出来ません。

4. 今後の予定又は抱負について：

現在の任務で学んでいることを、今後に生かしていきたいと思っています。

5. 在任間で特に印象に残ったこと

指揮幕僚課程の学生及び教官とともに参加した北海道研修が、最も印象に残っています。稚内、千歳、八雲にある様々な自衛隊の基地を訪問しました。

稚内で見学した博物館には多くの興味ある工芸品がありました。また、この博物館で私は、国のために命を捧げた9人の乙女の、とても悲しくて感動的な話を読みました。第2次

世界大戦末期に、サハリンで電話交換手として働いていたその9人の乙女は、わずかに残っていた日本人のほとんどがロシア軍に捕まるのを避けるため南に撤退した後でさえも、そこで働き続けました。ロシア軍が彼女達の職場に近づいてきたとき、捕まる前に、1人の女性が短い手紙を書き、その後9人全員が自ら命を絶ちました。私は、手紙の最後に「さよなら、さよなら」と書かれていたことを今も覚えています。彼女達は、困難な時期に本土との連絡ラインを保ち続けた勇敢な女性達でした。彼女達は、軍人ではなかったけれども多大な犠牲を払いました。この話は日本人に感動を与えたいと思います。

私はこの博物館を出る前に、涙を拭かなければなりませんでした。深く感動した話でした。

6. JAAGAに望むこと

具体的なアイディアは今のところありませんが、JAAGAが、2国間の関係を促進するために存在することを知り、うれしく思っています。私にこの記事を書く機会をくださったことに感謝します。



With colleagues of the Air Staff College

J A A G A 講演会実施

会長が境港市で講演



President of JAAGA, Gen Ishizuka (Ret.)
delivers a lecture

J A A G A の活動の一環として、民間への防衛思想の普及を事業として計画しているが、その第 1 回目として、9 月 28 日、航空自衛隊美保基地が所在する鳥取県境港市において、石塚会長による講演会が実施された。

会場の境港商工会議所大講堂には、「白鳥会」(境

港市の企業主の親睦会)、「美保基地協力会」、及び「鳥取県婦人防衛協会」から 100 名を超える聴衆が集まった。石塚会長は、J A A G A の活動とその目的についてパンフレットを配布してアピールした後、「最近の防衛事情について」と題して、我が国の安全を保障するためには米国との信頼関係を強固に保つとともに、衛星を含めた我が国独自の情報収集努力が重要であること、及び北朝鮮のミサイル、不審船等の脅威に対し我が国が抱えている問題点等について質疑を含め約 1 時間半にわたり説得力のある講話を行った。

日本海に面し日本有数の漁業基地であり、大陸との貿易で山陰の中心となっている境港市は、朝鮮半島情勢や経済水域の外交交渉等に関心が高く、今回の講演は時勢に合った問題を専門的見地から分かり易く話してもらったと好評であった。

(随行理事 笠井 記)

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解のため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。

J A A G A 事務局

会 員 募 集

発足4年目を迎えたJAAGAは、石塚新会長の下で、会設立の趣旨の具現化を目指して大いに活動を活発化すべき時と考えております。

会員相互手を携えて、来たるべき21世紀に向けて更なる前進を図るため、個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、個人会員につきましては次の通りです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させて戴きます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊OB

個人賛助会員 : 航空自衛隊OB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-17 赤坂郵便局私書箱第62号
日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-5323-5555 村木裕世(横河電機(株))

「電話」 03-5323-5135 同上

03-3594-0798 武智哲作(日本電気(株))

03-3245-6611 荒蒔義彦(新明和工業(株))

03-3219-5638 細 稔(株島津製作所)

()内は勤務先

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは?

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は?

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか?

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

☆ 原稿募集 ☆

「だより」の発行も回を重ね、今回は区切りの10号を発刊することになります

素人が手探り、手作りで始めた編集もまだまだ未熟な域を出ません

皆様のご意見や各種投稿を頂きながらより良い「だより」に成長させたいと考えています
現状、「だより」はJAAGAの活動を皆様にお知らせする唯一のツールとなっておりますが
これを≪**皆様と双方向の意志疎通が図れるツール**≫とするため

次号から ≪ **投稿ページ「広 場」** (仮称) ≫ を新設

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思っております

皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています

投稿受付

横幕 功 Tel 03-3286-0335 (新東亜交易)

Fax 03-3213-2405

E-mail yokoma@mb.infoweb.ne.jp